

<今回>35242回目 2024年72月1日(5日(月))14時10分~17時 6014会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読朝日文庫 p576510、軍器と禁書両者は対等位置 -より

<前回>3514回14回目 (24-64-17)29)出席者79名

資料1) (2-3-1)第35040回 (24-64-1729) のまとめ (清水)

2) 九州年号表 (清水)

資料2) 百済人祢氏の墓碑銘 (気賀沢、岩田、清水)

資料3) 隅田八幡神社鏡銘 (古田、榛葉)

資料4) 朝日新聞1月24日れきし歩き岩戸山古墳 (高木)

A 報告 部屋使用の前団体の方たちとエレベーター前で、部屋交代について、管理人との間で若干問答があった。最後には2時まで金を払っているから使用の権利があるとの発言も出たので、仲間が交代をせかせてすみませんと謝罪。前の団体は、1時間しか余裕はなく目いっぱい使いたいと事情も分かるので、こちらが5分か10分遅れて集まるように連絡しますと云うことで、開始時間を10分遅らせるように、しました。金曜webで服部氏が藤原不比等の過大評価説に疑問を呈する発表があった。各種資料を用いて、説得性が高い発表であった。私は「多胡碑」に不比等の名前が出ていと質問した。いろんな資料から関西の服部氏が不比等の権力基盤についての考察が論理的だったのを受けて質問した。多胡碑については後日丁寧な紹介を受けた。「羊」は周囲が郡司に任命されたのを疑問視しているのを、打ち消すために、上位3名の最下位(第3位)の不比等の名を出したのは、中央政界で最大の实力者と評価されていたのではないかという意味で質問した。

B資料 九州年号に入るといいますので、以前にも配布した年号表を配布しました。古田先生が二中歴を推薦している理由を確認してください。継体がある、聖徳がない。朱鳥9、大化6で大宝に繋がっている。注7)に源平盛衰記の平重衡東下りの段に、滋賀長光寺に法隆寺金堂釈迦三尊像光背銘の上宮王を聖徳太子とみなした伝承の発生が見られる。料 2) その席上、配布を受けた、「百済祢軍墓碑銘」の解説状況が解説されていたので紹介した。発見当

時、古代「日本」の呼称の最古の金石文と云う報道があった。が祢軍は白村江の占領軍の一員として日本書紀に

も名前が出ています。弟の墓碑は西安から出ていて北京博物館に現在保管されているという。扶桑の文字もある。660年百済が滅亡した時に唐に降伏して、唐の下級將軍として、活躍した。出所は北京の古物商から、拓本として出てきたもの、解説の様子が書いてある。最初の公表は2012年3月である。明治大学の気賀澤氏が発表した。朝鮮の軍将が一族、内陸の西安に墓標があると言うのは、朝鮮問題が片付いて、内陸地の兵隊の長に任命されていたのではないと推定される。封禅の儀の倭国酋長は誰であったか、サチヤマか。

3) 榛葉氏より、隅田八幡神社の順佛画像鏡の解説の原史量として配布された。左文、読み方などの参考になる。皆で画像を透かして見て、左文の意味を味わった。丁度今、読書している最中である。

4) 高木氏が朝日新聞24日の記事を紹介してくれた。新聞記者の文章は巧く現状をまとめている。磐井について岩戸山古墳が彼の墳墓と確定された経緯や、別区の裁判制度の評価など、話題になった。更に古田先生は何故「磐井継体戦争はなかった」論に変更されたか、調べることになった。

書式変更: インデント: 最初の行: 0 字

書式変更: インデント: 最初の行: 4 字

書式変更: インデント: 左 0.16 字, 最初の行: 0 字

書式変更: インデント: 左: 0 mm, 最初の行: 0 字

C

C 読書 朝日文庫版:p576506、補章 軍器と禁書9行目、なお井上光貞は から

(1) ~~1) 軍器は単なる兵器、武器の類ではない。隅田八幡神社の人物画像鏡の読み方について、水野裕の説に賛同したが、日斗を八月十日の意味に採った。理由は「倭の五王」を日本書紀の允恭にして、癸未年は443年とした。忍坂之大中津比売を意柴沙加宮とした。「寿」は「泰」である。①字形判定—左右対称に近い。奉か泰の左文か、直後の「遺」は左文である。(左文とは裏返しにした文字の用法、刻むのは困難、左右逆になる。)~~②対等の論理、従来説は大王・男弟王—天皇、斯麻を配下の人物に当てていた。③「遺」の用例を多数出している。遺(使者)+敬語(奉、朝、献)の動詞。この鏡の場合は取、作の動詞で敬語表現がない。高橋健白氏は念長寿を年長奉と判読して—を奉ると読解した。(在銘最古日本鏡大正3年)がこのような文型は存在しない。敬語は遺の下に来る文例を上げた。正規軍の装備、旗指物、楽器(鐘、太鼓)などを指す。

2) 3回の軍器、禁書、の令を出して、出頭せよと命じている。①慶雲4年(707)7月山沢に亡命して軍器を狭蔵し、百日まで首せざんば罪に復すること初めの如くする(元明天皇)②和銅元年(708)同文で軍器のところを禁書としている。③養老元年(717)11月軍器を兵器にして出している(元正天皇)少し収まってきた感がある。しかし天皇一元史観からでは700年までは九州倭国、701年から近畿天皇王朝への交代と机上のようにはいかない、非常に緊迫感がある。実世界では正規軍の一部が各所に立てこもって、抵抗、蜂起しようとした緊張感があつた。続日本紀の文武4年6月の肥人等薩末等の比売、評督、助督等の武力衝突と関連する。

3) 3年のずれ問題 劉仁願の李守真の派遣問題。劉仁願は天智10年の3年前に雲南に配流になっている。(資治通鑑唐紀等)すると3年ずれが生じ、郭務棕の派遣問題に波及する。これには唐、百済史料からの引用が予想される。

①天智2年(663)8月大唐の軍将、戦船170艘を率いて、白江に陣列する。②天智3年5月13日劉仁願、朝散大夫郭務棕に表函と献物を進ず。(第1回)③天智4年 百済祢軍、郭務棕ら(第2回)④天智6年百済鎮将熊津都督府熊山県令上柱国司馬法総等を遣わして、大山下境部石積等を筑紫都督府に送る。⑤天智8年また大唐郭務棕等に2千余人を遣わす(第3回目)⑥天智10年11月16日百済鎮将劉仁願、李守真を遣わせり。

⑦天智10年11月10日対馬の国府使いを筑紫大宰府に遣わして、薩夜麻らの帰還を告げる。天智3年の表函と献物が戦勝国としてはおかしい(?)。筑紫都督府は倭の5王の時までさかのぼる。(のか?)。

4) 二中歴

九州年号の時間帯から、独立資料があり、各種九州年号のなかでも二中歴を推奨する。

24—~~22024—2—5(月) 14時から17時 601会議室~~

~~2—19(月) 14時から17時 602会議室~~—7—22(月) 14時 10 分から17時 603会議室

~~8—5(月) 14時 10 分から17時 601会議室~~

書式変更: インデント: 左: 0 mm, 最初の行: 0 mm

書式変更: フォント: 太字

書式変更: フォント: 太字

書式変更: インデント: 左: 0 mm

書式変更: インデント: 左: 6.3 mm